



城下町に活気

“お店がいっぱい！黒坂フェスタ、で
まちにぎわう”



1)「あま〜い」と好評だった自家製ジュース
2) ミツロウ作り教室には人だかり 3) フリー
マーケットで掘り出し物発見！ 4) 関家の軍
旗も掲げられ、活気あふれるまちなか 5) ガ
ラス瓶に花などの植物を入れるハーバリウム
作り 6) 原木シタケの旨味が凝縮されたじゃ
ぶ汁 7) お茶席でゆったり時が流れる 8) 元
大相撲力士による本格ちゃんこ！ 9) 駅前には
キッチンカー。良い香りに誘われて多くの人が



黒坂のまちに人の流れを
町内外から23店舗が集結

10月14日、黒坂のまちなかで「お
店がいっぱい！黒坂フェスタ」（同
実行委員会主催）が開かれました。

これは、城下町の風情を残す黒坂
に、人の流れと活気を戻そうと同実
行委員会の梅林敏彦さん（下黒坂）
らが中心となって企画されたもの。
当日は、大夢多夢（杵つき餅やおこ
わの販売）や畑集落（とれたて野菜）、
お茶屋おがた（根雨）、日野高校を
はじめ、町外や県外から23店舗が出
店しました。

同フェスタでは、JR黒坂駅の駅
舎や駅前広場、まちなかに点在する
空き地などを活用し、訪れた人がま
ちなかを散策できるような工夫。多く
の人が城下町をしのぼせるまちなみ
を眺めながら買い物を楽しむ様子が見
られました。

イベントを企画した梅林さんは、
「期待以上の人がありうれしい。
できるだけ多くの店舗を回り、長く
まちなかに滞在してもらおうのがねら
い。黒坂の歴史や文化を知るきつか
けにしてほしい」と笑顔をみせまし
た。また、「これをきっかけに地域
住民が主役となって企画・実現でき
るようになってくれたら。今後もみ
んなが気軽に集まれる機会をつくっ
ていきたい」と抱負も。一層の盛り
上がり期待されます。



収穫の喜び、深まる地域のきずな
とっとり共生の里「収穫祭」



普段は味わえない収穫の喜びをみんなで



平成 27 年に始まった共生の里事業。皆さん息ぴったり

作業後には、菅福社会体育館で収穫を祝うじゃぶ汁芋煮会が開かれました。今年の秋収穫したばかりのコシヒカリを使ったおにぎりやサトイモなどがふんだんに入ったじゃぶ汁が振る舞われ、参加者は舌鼓を打ちながら交流を深めていました。

11月2日、菅福地区の住民と伯耆地区郵便局長会から合わせて約150人が参加し、収穫祭が行われました。

これは、菅福地区連合自治会（池座敬人会長）と同郵便局長会（菅田秀明会長）が連携して取り組む「とっとり共生の里」事業の一つとして行われたものです。

今回は、菅福地区が新たな特産品として売り出している「はぶ茶」の原料となるエビスグサを収穫。種子が入ったさや状の実を取り除いていくのは手間のかかる作業ですが、この日はあつという間に完了。この日収穫された約30kgの種子は、後日焙煎され、はぶ茶の原料にされるとのことです。



受賞を喜ぶ上谷修さん（左）と天郷ファーム代表の上谷春さん

コメ作りは地域づくり
第17回日野川源流米コンテスト

10月20日、第17回日野川源流米コンテストが、「農と食のフェスタinせいぶ」で開かれ、優秀賞に上谷修さん（久住）、奨励賞に農事組合法人天郷ファーム（上谷春代表）が選ばれました。

このコンテストは、日野郡産米のおいしさを広くPRするとともに、良質米の生産技術を確立することを目的に行われています。

10月30日には、2人が町役場を訪れ受賞を報告。2人は「コメを作ることは地域を守ることに繋がっている。そんな思いを胸に、今後もおいしいコメを作っていきたい」と笑顔を見せていました。



おつきい！地域の人に手伝ってもらいながら…

サツマイモも笑顔も大収穫！
ひのっこ保育所サツマイモ掘り交流

10月17日、津地市内の畑でひのっこ保育所と津地自治会とのサツマイモ交流会が行われました。

青空の下、保育所から34人の園児が参加し、6月に植えたサツマイモを津地自治会の皆さんと収穫。園児らが大きく育ったサツマイモの掘り起こしに悪戦苦闘する中、地域の人々が優しく手助けする様子が見られました。

サツマイモ掘りの後は、みんなで焼いもをほおばり交流。持参した袋に大きく育ったサツマイモを持ち帰り、大満足の収穫祭となりました。